

# 令和7年度 すずか幼稚園・第2すずかきしおか幼稚園 学校関係者評価書

	評価項目	本年度の重点的活動計画	達成状況および成果と課題	(学校関係者評価)	今後の改善点
管理運営	組織運営	<p>①教員に園運営基本方針や教育目標を意識化するため、園行事や研究保育の立案の際にねらいと教育目標の合致点を明示するとともに、事後反省の際にねらいの達成について振り返る。</p> <p>②両幼稚園の年年少クラスにおいて、教育活動の情報交換を活発化させ、より充実した取り組みをするとともに、年年少クラスの募集方法を検討する。</p> <p>③重点的な行動計画は、前年度から教員全員で話し合って作成している。自分たちで考えた行動計画を毎月末に自己チェックし、学年で話し合い共通理解を深める。</p> <p>④保護者アンケートの項目を見直す。実施したアンケートの評価を分析するとともに、職員間で共有し対策・改善を検討する。</p>	<p>①園行事や研究保育などの立案の際に教育目標に合致したねらいを示すことができてきた。それらの実施後にはねらいが達成できたかどうかを再考することができた。</p> <p>②両園における年年少クラスの教育活動の情報交換ができた。今後も進めていくことにより年年少組の位置づけをしっかりとしたい。</p> <p>③月末に各学年で行動計画の各項目に関する話し合いを持つことができ、教員の意識も高まっていると考える。</p> <p>④保護者アンケートの見直しを行い、改訂したアンケートを実施した。質問が具体的になったため、保護者からも答えやすいという意見をいただいた。</p>	<p>①今後は評価方法の具体化、共有、達成度を可視化、振り返り様式や記録方法を工夫し、次の実践へ確実につなげていくことを課題としてほしい。</p> <p>①園行事や研究保育の立案時に教育目標との関連を明示し、実施後にねらいの達成状況を振り返っている点は、教職員が教育目標を意識して保育に取り組んでいることの表れであり評価できる。振り返りの結果を記録として蓄積し、次年度の行事計画や日常の保育に具体的に反映させる仕組みを整えることが望まれる。また、個々の教員の取組にとどまらず、園全体で共有する機会を増やし、継続的な教育の質の向上につなげていくことを期待する。</p> <p>①個人評価票において、「教育目標を考慮しているか」の数値がやや低い園運営時、おのずと考慮されていると思います。</p> <p>①園運営基本方針や教育目標をかかげて、自己評価を定期的にチェックして行く中で、先生方が保育の充実に努力してみえる様子がよく理解できました。中には到達度(1)というご意見もありましたが、保護者アンケートは、保護者の方々の肯定的な答えが多く、先生方の日々の努力の成果と思われます。</p> <p>②年年少クラスから入園している子とそうでない子はやはり園に対する意識が異なるので、今後も可能な範囲で多数募集するとよいのではと感じる。</p> <p>②継続的な連携体制を確かなものにする意味でも、共有方法や両園で共通理解を念頭に進めてほしい。</p> <p>②年年少クラスの需要は高いことが続くと思われます。なかなか定員増は様々な兼ね合いがあることで難しいですが、検討いただいてもよいのではと思います。</p> <p>②両幼稚園間で年年少クラスの教育活動に関する情報交換が行われたことは、教育内容の充実と教職員の連携強化につながる取組として評価できる。年年少クラスの教育的意義や育てたい姿を明確にし、保護者に分かりやすく周知する工夫が求められる。また、募集方法についても地域の実情を踏まえた検討を行い、入園につながる具体的な広報活動の充実を図ることが望まれる。</p> <p>③個人評価の達成度において、若干不十分(2)が多く感じました。目標の設定やサポートの体制にも課題があるのではと思いました。現在、メンター制度(サポートする先輩)のような取り組みについては、どのようになっていますでしょうか？</p> <p>③毎月末の自己チェックと話し合いはとても大切。</p> <p>③新任の先生からベテランの先生まで、個人目標・評価が、しっかりとまとめられています。これからの内容を共有することによって、更なる園運営の円滑化、園児への支援体制の充実が図れると思います。それにより、園に通っている保護者の方からの信頼も熱いものになると思います。</p> <p>③教職員全員で重点的な行動計画を作成し、毎月の自己チェックおよび学年での話し合いを継続して行っていることは、教員の主体性や共通理解の向上につながっていると評価できる。話し合いの結果や課題を園全体で共有し、改善内容を具体的な行動として可視化することが必要である。また、達成状況を客観的に確認できる指標を設定することで、取組の成果をより明確に把握できるようにすることを期待する。</p> <p>③収穫した項目は必ず検証→反映へと進めてほしい。協議結果を具体的な行動や環境構成に落とし込むことで、教員の意識上昇は保持できると思う。</p> <p>④運営の課題の抽出、改善の提案、実施に重要な情報が得られるため、保護者アンケート、職務満足度調査は、ぜひ継続していただければと思います。</p> <p>④吸い上げの方法は継続的にブラッシュUPして、信頼関係の向上につなげてほしい。</p> <p>④保護者アンケートの改定とアンケート結果に対するコメントが非常にわかりやすくなったと感じました。多様な価値観や考え方がますます増えていき、100%の満足を得るのは難しいが、今後も継続していただきたいと思います。</p> <p>④保護者アンケートの項目を見直し、実施・分析および職員間での共有を行っている点は、保護者の意見を園運営に生かそうとする姿勢として評価できる。アンケート結果から導き出した改善策や対応内容を保護者へ分かりやすく周知し、意見が園運営に反映されていることを示すことが望まれる。また、自由記述欄の活用や回答率向上の工夫を図り、より実態に即した意見収集に努めることを期待したいです。</p> <p>④ホームページの閲覧頻度が低いようですが(保護者アンケートNO.6)理由はどこにあるのか検討したい。</p> <p>④具体的な質問が多く答えやすい。(特に問4, 6, 8, 9, 10, 18, 21, 22など)23項目は多すぎるので精選したい。「記述欄」も大切。保護者の本音が出る。</p> <p>④NO17園での「子どもの様子や成長について」の情報の伝わり方がやや低いような気がします。いろいろな方法を使って、伝えてみえるようですが、何か有効なものがあれば取り入れたい。</p>	<p>①園行事や研究保育の立案において、そのねらいと教育目標等のつながりを考える素地はできつつあるし、反省の際にもねらいの達成を考えることができるようになってきているので、今後もつながりを大切にしたい教育活動を企画できるようにしていきたい。</p> <p>②年年少クラスの活動内容に関しては、これまで紹介する機会が少なかったと思われる。そこで、ホームページで発信することにより、園の取り組みを知っていただけるようにしたい。</p> <p>②両園で長期の計画や具体的な内容(日常生活習慣や活動など)について話し合う時間を設けたい。</p> <p>③行動計画チェック表の作成を年度末に行い、自分たちが決めたチェック表を毎月話し合う体制はできつつある。今後も引き続きチェック表の取り組みを続けたい。</p> <p>④保護者アンケートの見直しにより回答しやすくなったとの声を聞くことができた。今後も保護者アンケートの取り組みを続けていきたい。</p>

<p>安全管理</p>	<p>①感染症対策(手洗いや消毒など)を継続して取り組むとともに、熱中症対策を充実させる。          ②地震と火災、不審者の侵入に対する避難訓練については位置づいてきている。今年度は、通園バスの緊急通報訓練をはじめ、「園児が自分自身を守る」「情報収集訓練」などの避難訓練を企画する。          ③「不適切保育」「洪水等水害」「土砂災害」などの対策マニュアルを作成するとともに、教員が共通理解できるよう研修会を実施する。</p>	<p>①手洗いや消毒は位置づいてきている。また、熱中症対策として、外遊びの際に30分ごとに給水を取り入れ、これも位置づいてきている。          ②避難訓練は隔月に実施できた。いろいろな事案を想定した取り組みができてきた。          ③「洪水等水害」「土砂災害」の対策マニュアルは4月に策定できた。また、「虐待と疑われる事案(不適切な保育)防止のためのガイドライン」を6月に策定し、職員で研修できた。</p>	<p>①WBGT値など科学的根拠に基づいた熱中症予防を推進するとともに、子供達が自ら必要性を理解し行動できるよう指導を深めてほしい。          ①危険予測 ②対策をとる ③継続的に見直す 今、一番重要な管理について、先生方の日々の研修が理解できました。          ①こまめに給水を取入れていただき、無くなってしまった場合、お茶を補充していただけるのでとてもありがたいです。          ①安心安全は、教育活動の基礎基本です。長引いたコロナ禍や他所の不幸な事案を生かして適切に対応されていると思います。          ①手洗いや消毒が日常的な習慣として定着しており、継続的な感染症対策が実施されている点は評価できる。また、外遊びの際に30分ごとの給水を取り入れるなど、具体的な熱中症対策が実践され、園児の健康保持に配慮した取組が行われていることが認められる。気温や湿度などの状況に応じた活動時間の見直しや判断基準の明確化を図るとともに、家庭との連携を強化し、登園前の体調確認や水分補給の重要性についても周知を継続していくことが望まれる。          ①個人評価の中に、消毒やフィルター掃除、破損遊具などへの対応について課題や達成度の低さが散見されました。個人的な課題と職場環境としての課題について検討が必要かと思いました。          ②活動を通じて子供達から各家庭に意識が伝播することを期待しています。          ②すべての事態を想定して対処することは不可能だと思いますが、災害時対応を習慣化することによって、大難を小難に抑えるために取り組み続けることが大切だと思います。          ②災害時の食料備蓄について、家庭では、従来の3日分から7日分に増やすように推奨されているが、園での対応はいかがでしょうか。          ②避難訓練を隔月で実施し、さまざまな事案を想定した取組を行っていることは、安全意識の向上につながるものとして評価できる。通園バスの緊急通報訓練や園児自身が身を守る行動を意識した訓練を取り入れている点も、実践的な危機管理体制の充実として認められる。訓練実施後の課題や改善点を記録し、次回の訓練計画へ具体的に反映させる体制を整えることが望まれる。また、園児の発達段階に応じた指導方法の工夫や、保護者への情報共有を通して、家庭を含めた安全意識の向上を図ることを期待する。          ②バスの訓練や避難訓練をしっかりとこなしていただいている印象。子どもを預ける上で安心してまかせられることは大変重要であると思うので、今後も続けてほしい。15年前の震災での教訓を忘れず取り組んでほしい。          ②今後も訓練の見直しのサイクルを止めることなく実行していただければと思います。          ③具体例が載っているマニュアルはとても有効だと思う。今後も活用して理解度に差がないよう研修してほしい。          ②③積極的に対応されていますし、取材などもあり情報発信にも繋がっていると思いました。          ③「不適切保育」に関しては取り組む内容としては難しく、行政や他の教育機関などの連携も必要になるかと思いますが、ただ、園の先生の負担にならない程度に取り組むことによって、いち早く情報展開できるように準備しておくことは必要だと思います。          ③園は教員にとっても学びの場になっていると思います。引き続き様々なテーマで資質向上を図って頂きたい。          ③洪水・土砂災害対策マニュアルを年度当初に策定し、さらに不適切保育防止のためのガイドラインを作成の上、職員研修を実施したことは、組織的な危機管理体制の整備として高く評価できる。職員間で共通理解を図る機会を設けている点も適切である。マニュアルの内容を定期的に見直すとともに、実践的なシミュレーションや事例検討を取り入れ、職員が具体的に行動できる体制をさらに強化することが望まれる。また、新任職員への継続的な周知徹底も重要だと思います。          ③安全管理はやってやり過ぎることはないもので、もうこれで十分ですとは言えませんが、よく考え、マニュアル等も策定していただいていると思います。</p>	<p>①日頃から手洗いや消毒だけでなく、規則正しい生活習慣、食事、運動など子どもたちの生活を見直すとともに、空気清浄機等の器具の点検整備などを定期的に行っていけるよう注意していきたい。          ②避難訓練の実施は年間を通して実施できている。今後もいろいろな災害を想定して訓練を続けていきたい。          ③全国の大学附属幼稚園で策定が進められてきている「いじめ防止基本方針」を策定したい。</p>
-------------	---	---	--	---

<p>家庭、地域等との連携</p>	<p>①各種通信の発行について、それぞれが紙媒体か電子媒体かどちらの発行が適切かを吟味し、できるところからペーパーレス化を図る。 ②近隣の老人施設との交流については、対面での交流ができない現状の中、園児の活動などをDVDにして贈り、交流を継続していく。 ③新聞の購読家庭が少ない現状はあるが、園を紹介できるテレビなどのメディアに取り上げられることもあるので、今後も情報提供は進めていきたい。 ④「ボーディ」の講座内容を見直し参加者の増加を図るとともに、未就園幼児を対象とした「ラッコルーム」「ひよこひろば」を充実させる。</p>	<p>①通信の一部をペーパーレスとし、コードモンでの添付とした。しかし、一部の保護者からは紙媒体を希望された。すべての通信をペーパーレスすることは難しいと考える。 ②子どもの作品のみを渡すだけになったりしたが、お年寄りの存在を意識づけるためにも続けていきたい。 ③今年度はテレビ報道で取り上げられる機会が多かった。(4事案)保護者以外の人からも報道を見たとの報告を受けた。 ④「ボーディ」の講座においては、新規に「緑茶教室」を開設し好評であった。また、「さんすう教室」は、長期休業中に親子で参加できるようにしたところ、好評であった。 ④「ラッコルーム」「ひよこひろば」も位置づいており、参加者も増えている。</p>	<p>①通信の一部を電子媒体(コードモン)で配信するなど、時代に即した情報発信の工夫がなされている点は評価できる。一方で、紙媒体を希望する保護者の声にも配慮していることは、家庭状況を尊重した柔軟な対応として適切である。 ①目を通してほしい通信については、紙での発行にすべきであると感じる。写真などあれば我が子が写っていないか関心を持って一読するのではないか。 ①紙媒体か電子媒体かは難しい所ですが、今、スマホをもっていない親はいないと思われるので、思いきりって切り換えられては如何か。 ①すべてペーパーレス化すべきと考える。紙でほしい人は自分で印刷するだろう。すべての意見を取り入れるのは無理だから、一部の意見を気にする必要はない。 毎日時間を決めて配信すれば、タイムリー内容になるし、先生方の手間がはぶけると思われる。 ①ペーパーレスは便利ですが、子どもと親の会話のネタにもなると聞き(給食のこんだてなど)なるほどと思いました。園の手間も増えるでしょうが、配信と紙ベース、紙のみ、配信のみを上手に組み合わせてもいいのかなと思います。 ①保護者アンケートにおいて、「園での子どもの様子をもっと伝えて欲しい」との内容がありました。先生方の負担を増やさずに保護者とのコミュニケーションの向上を考える必要があります。コードモンの機能の活用や業務に落とし込む仕組み、研修会などについて検討が必要かと思いました。 ①通信内容の重要度や保存の必要性に応じて媒体を使い分けるなど、より整理された運用方法を検討することが望まれる。また、電子媒体の活用方法について丁寧に周知し、保護者の理解を深めながら段階的なペーパーレス化を進めていくことを期待します。 ②対面での交流が難しい状況下においても、DVDや作品の贈呈などの方法で交流を継続している点は、地域とのつながりを大切にしている姿勢として評価できる。園児が高齢者の存在を意識する機会を維持していることは、情操教育の観点からも良いと感じる。可能な範囲で双方向のやり取りが感じられる工夫(手紙やメッセージ交換など)を取り入れることが望まれる。また、状況が整い次第、対面交流の再開に向けた計画を検討することを期待します。 ②いずれ対面での交流が再開できるかもしれない。つながりがあることは、双方にとって、コミュニケーションの場として「必要であると思うので、DVDの贈答のみでも続けてほしい。 ②「老人施設の訪問」について、本当に意義深いと考えておられるなら、園児の歌や劇を発表して、直接、感想を聞くこともできます。コロナ禍の対応をそのまま続けたいといけないのか、疑問は残ります。 ③テレビ報道で複数回取り上げられるなど、園の取組が広く地域に発信されたことは、園の教育活動を周知するうえで大きな成果である。保護者以外の地域住民からの反響があった点も、地域とのつながりを広げる機会となったと評価できます。メディア発信だけでなく、園ホームページやSNS等を活用した継続的な情報発信の充実を図ることが望まれる。また、情報発信にあたっては個人情報や安全面への十分な配慮を継続することが重要だと感じます。 ③園の広報活動を積極的にすることによって、知名度も上がり緑茶教室や算数教室、園の取り組みもたくさんの方に知ってもらえると思います。 ③テレビで取り上げられられていることは、幅広い層への宣伝にもなるので、積極的に活用すべきだと感じる。 ④ボーディの講座も、父母の会役員の声なども参考に、入れ替えがあってもいいのではないかな?と思います。今は特にお母さん同士の交流よりも親子同士での交流を求めているのではないかな、と感じます。 ④少子化が進む中で選ばれる園になるために「ラッコルーム」「ひよこひろば」は重要な活動だと思います。参加者が増えていて評価できます。参加者アンケートなどはありますか?園の特徴などが伝わっているのか、どのような希望や期待があるのか等、情報があればと思いました。 ④新たに開設した「緑茶教室」や、長期休業中に親子参加型とした「さんすう教室」など、内容の工夫により参加者から好評を得ている点は評価できる。また、「ラッコルーム」「ひよこひろば」についても定着し、参加者が増加していることは、地域の子育て支援機能の充実につながっている。参加者の意見を継続的に把握し、ニーズに応じた講座内容の見直しを行うことが望まれる。また、未就園児事業から入園へとつながるような継続的支援の仕組みづくりや、広報活動のさらなる充実を図ることを期待したいです。 ④忙しい保護者の方も多いので、就労していないと思われる。未就園児のいる家庭向けの講座を増やしてみてもは。(ボーディについて)</p>	<p>①園の情報を保護者に公開する方法を、紙ベースと配信ベースとに分け、より効果的な方法を考えていきたい。 ②老人施設との交流は、園からの発信はしているものの、施設の反応を確かめることをしていなかった。次年度は施設の反応を聞き取りたい。 ③園行事の報道機関への情報提供は、今後も引き続き行っていきたい。 ④「ボーディ」は、長期休業中の親子講座に一定の好評を得ることができたので、今後も親子で参加できる講座を考えていきたい。</p>
-------------------	--	---	---	---

教育活動	教育課程と幼児理解・援助	<p>①「友だちとのかかわり」や「教師とのかかわり」など、「人とのかかわり」を研究主題に据え、前期・後期の2回の公開保育や事後検討会を実施する。</p> <p>②子どもたちが主体的に教育活動を進めたり自由遊びを楽しんだりできる教室環境と指導について研修を深めていく。</p> <p>③鈴鹿市の集団適応診断を有効活用するとともに、小学校との連携を深め、就学時における情報共有を進める。</p>	<p>①「人とのかかわり」の研究主題も位置づいており、研究保育の指導案にも人とのかかわりに関するねらいの設定もできてきている。今後も同様の研究主題を続けていきたい。</p> <p>②朝の自由時間においては全体的な取り組みは困難であるが、それぞれの教員が、主活動の中において子どもたちの主体性が発揮され、子どもたちの意見を引き出したりするよう工夫している。</p> <p>③集団適応診断を機会に様々な機関と連携しながら、保護者とも連絡を取りながら取り組むことができた。</p>	<p>①他人とのかかわりが苦手な子が昨今増えている中で、とてもよい研究主題かと思います。小学校との連携も深め、幼児教育が人生の大事な根のひとつということを発信してもらえるといいのかなと思います。</p> <p>①外国にルーツのある子も増えている中で、かかわり方もたくさんあることを幼児のうちから学べると良いと思うので、先生方の援助を期待したい。</p> <p>①人とのかかわりは永遠のテーマだと思います。先生方の年齢差も大きく、世代間ギャップがあるので、その都度、短いミーティングを繰り返して若い先生方の理解を深めてほしい。(経験にまさるものはないと考えています。)</p> <p>①運動会や発表会など、幼児の頃から大勢と共に、また、大きな舞台に立つという経験は、他園では、なかなかできないと思う。その中できちんとさらに成長のためにねらいを持って取り組んでいただければ、保護者にとっても嬉しく思う。</p> <p>①「友だちとのかかわり」「教師とのかかわり」など、人との関係性に着目した研究主題を継続的に設定し、公開保育や事後検討会を実施している点は、教育の質向上に向けた計画的な取組として評価できる。研究保育の指導案にもねらいが明確に位置づけられており、教職員の共通理解が深まっていることがうかがえる。公開保育や検討会で得られた成果や課題を園全体で共有し、日常保育にどのように生かされたかを検証する仕組みを整えることが望まれる。また、研究の視点を具体的な子どもの姿と結び付けて記録し、継続的な研究テーマとして発展させていくことを期待します。</p> <p>②教員それぞれが主活動の中で子どもたちの主体性を引き出す工夫を行い、意見を尊重した保育を実践している点は評価できる。子どもが自ら考え、表現する機会を意識している姿勢が見られる。教室環境の工夫や自由遊びの充実について、園全体での共通理解をさらに深めることが望まれる。また、主体性がどのように育っているかを具体的な事例として共有し、環境構成や指導方法の改善に継続的に取り組むことを期待する。</p> <p>②子どもたちそれぞれに個性がある中で、意見を工夫して引き出していただければいいことはありがたい。</p> <p>②主体性は個人差もあり、なかなか一朝一夕に身につくものではありませんが、一人ひとりの「好き」を大切にしつつ、見守り、支援し、その子に合った「自分」を見つけられるよう工夫を続けていってください。</p> <p>③集団適応診断を契機として関係機関と連携を図り、保護者とも連絡を取りながら支援に取り組んでいる点は、幼児理解を深める実践として評価できる。また、小学校との情報共有を進める姿勢は、円滑な就学につながる重要な取組であると感じます。診断結果の活用方法をより明確にし、具体的な支援計画へ反映させる仕組みを強化することが望まれる。また、小学校との連携については、情報提供だけでなく、相互理解を深める交流や意見交換の機会を継続的に設けることを期待する。</p> <p>③何か困ったことや気になる点があったとしても、どこに相談すればよいかわからないので、園を通して、専門機関に診ていただけるのは、不安の解消につながると思う。</p> <p>③集団適応診断は、子どもにとっても、受け入れる小学校にとっても重要なことです。積極的な取り組みが必要です。</p> <p>③④先生方で園児の様子や保護者からの意見を共有してくださることはありがたい。信頼にもつながると思う。教員間の情報共有を行いながら、目的を見据えた改善・工夫を進めてほしい。</p> <p>鈴鹿市でも推進される「幼保小の架け橋プログラム」についての対応と、少子化が進む中での園のブランディング(差別化と魅力発信)が重要になってくると思っています。</p>	<p>①研究保育において「人とのかかわり」をねらいの大きな柱としてきたところ、その反省などにおいて「友だちとのかかわり」について注目している様子がうかがえる。今後も「人とのかかわり」を主題としていきたい。</p> <p>②主活動の中に子どもたち自身が主体的に活動できる時間を設定できるようにしていきたい。そのため、子どもたちの主体性を重んじる活動に関して、その具体例を基にした研修を行ってきたい。</p> <p>③鈴鹿市の集団適応診断は今後も活用していきたい。また、小学校との円滑な接続を図るため、連携を強化したい。</p>
------	--------------	---	---	---	--

<p>研修</p>	<p>教員の資質向上</p>	<p>①研究保育を継続して実施し、教育目標とねらいとの整合性を理解するよう計画と反省を重視する。 ②職員会議後の園内研修を継続して実施するとともに、最新の教育情報を園内研修として共通理解の機会を図る。 ③毎日の打ち合わせで子どものエピソードについて話し合う体制を継続するとともに、エピソードをもとに保護者とのコミュニケーションを図れるようにする。 ④東海北陸大会への参加はもとより、県内での園外研修にはできる限り参加する体制をとり、園外研修へ参加した教員の還流報告会を継続して取り組む。 ⑤教員の職務満足度をアンケートにより調査することにより、本園の職員の働き方改革につなげたい。</p>	<p>①研究保育の指導案に教育目標との関連性を示す項目を設定した。また、ねらいを達成できたのかどうかを考える項目を設定したことで、教員全体が教育目標を意識できてきている。 ②園内研修会は継続的に実施できている。しかし、受け身的な研修が多くなっているため、参加型を多くしていきたい。 ③その日にあった些細な出来事を話題に話し合う機会をつくっていききたいし、保護者とのコミュニケーションに活用できるような話し合いとしていきたい。 ④今年度の東海北陸大会は近場の岐阜県だったため、12名の教員を参加させることができた。また、還流報告会も実施でき、自分たちの普段の教育内容を振り返る機会となった。 ⑤2月の職員会議にて職務満足度をアンケート形式で調査した。今後の園運営の参考にしたい。</p>	<p>①個人評価や職務満足度アンケートから、研修活動については機会、実施ともに評価できますが、一方で教育目標やねらいに対する自己評価の達成度は低いように思いました。その理由について話し合うことで、対策の立案に繋がると思いました。 ①研究保育の指導案に教育目標との関連性やねらいの達成状況を明示する項目を設定したことは、教員が教育目標を意識しながら保育を構想・実践するうえで有効な取組であると評価できる。計画と反省を重視する姿勢が教職員全体に浸透しつつあることがうかがえる。研究保育で得られた成果や課題を日常保育へどのように生かしたかを検証する仕組みを整えることが望まれる。また、具体的な子どもの姿をもとにした実践記録の蓄積を進め、継続的な資質向上につなげることを期待する。 ①日々の保育を大変な中で、教育目標を達成できるよう動くのは、難しいこともあるのでは。その中で先生方が前向きに高い意識を持って、園児と向き合ってくださいことは非常にありがたい。②のように、継続して、かつ最新の情報を取り入れて研修をおこなっておられる点も保護者として信用できる。 ②受け身的な研修ばかりではどうしてもやらされている感となりがちになると聞きます。参加し意見や考え方を共有してほしいと思います。 ②参加型・対話型研修への転換を図り、ぜひ主体的に学び合う研修形態を実現させてほしい。 ②職員会議後の園内研修を継続的に実施し、最新の教育情報を共有している点は評価できる。教職員が共通理解を図る機会が確保されていることは、組織的な教育力の向上につながるものである。受け身型の研修だけでなく、事例研究やグループ討議など参加型の研修を増やすことで、より主体的な学びの場とすることが望まれる。教員同士が意見交換を行い、実践に直結する研修内容へと発展させていくことを期待する。 ③個人評価において「一部で子どもへの心無い言葉や命令口調などを耳にすることもあり」や「話し方がきつくなって…」という記載があった。近年、教育現場の問題として注目されている内容の一つかと思えます。具体的な対策について検討が必要だと思いました。 ③「些細なことでもお話いただけることで、我が子ときちんとみてくださるのだなと感じる。 ③OJTと研修会、両輪が大切です。具体的な場面を素材に研修ができているようですね。 ③日々の打ち合わせの中で子どものエピソードを共有しようとする姿勢は、幼児理解を深めるうえで重要な取組である。また、その内容を保護者とのコミュニケーションに生かそうとする意識も評価できる。エピソードの共有を継続的かつ計画的に行い、記録として蓄積する仕組みを整えることが望まれる。さらに、保護者との対話の中で具体的な子どもの姿を丁寧に伝えることで、家庭との信頼関係をより一層深めていくことを期待する。 ④東海北陸大会への多数参加や、園外研修後の還流報告会を実施している点は、学びを園全体に広げようとする積極的な姿勢として高く評価できる。外部研修を通して自園の教育を振り返る機会を設けていることは、教員の専門性向上につながっている。還流報告の内容を具体的な実践改善へ結び付ける仕組みを強化することが望まれる。また、若手教員を含めた計画的な研修参加体制を整え、継続的な人材育成につなげていくことを期待する。</p>	<p>①研究保育の指導案において、教育目標とねらいとの整合性を考慮するとともに、「人とのかわり」との関連性を明確にできるようにしていきたい。 ②園内研修において、子どもたちの主体的な活動の事例をもとに話し合っていきたい。 ③学年ごとの打ち合わせなどにおいて、子どもの姿を基にした話し合いが行われるようにしていきたい。 ④園外での研修を教員に紹介することにより参加を推進していきたい。次年度は東海北陸大会が三重県で開催されるので、参加を進めていきたい。 ⑤職務満足度調査の結果を検討することにより職員の仕事量の軽減につなげたい。また、経年変化を見るために調査を継続したい。</p>
-----------	----------------	--	--	--	---

- ④園外、県外の教育内容を知ることは、視野も広がり、有益だと思う。
- ⑤職務アンケートで有給がとりにくいと感じている教員が若干多いのでは？と感じます。担任だから、とかいろいろ心配や不安はあるでしょうが、今の時代このアンケート結果が少し心配です。
- ⑤職務満足度調査について、この調査をされた事に敬意を表します。給与・休暇にまで踏み込んだアンケートには驚きましたが、角度をかえてみればスタッフの皆さんのようきゆを知ることにより、少しでも働きやすい様に雇用者側が考えているという証でもあり、職員の退職帽子にもつながる良い試みだと思います。今後は、アンケートの結果を考慮した改善の取り組みにつながればと思います。
- ⑤職員アンケートの結果は、特に職場環境の改善や働き方改革の実施に対して大変参考になる内容かと思いました。それらの結果を受けた改善、改革に期待しています。
- ⑤職務満足度調査において、研修の充実や仕事の楽しさ、ロールモデルとなる教員の存在、人間関係の良さ、働く幸せなどについて満足度が高く良いのですが、「比較的相談しやすい」や「もう一度幼稚園教諭になりたい」において低い評価になっている点が気になりました。
- ⑤職務満足度をアンケート形式で調査し、園運営の改善に生かそうとする姿勢は、働き方改革や職場環境の向上を目指す前向きな取組として評価できる。アンケート結果を分析し、具体的な改善策を示すことが重要である。また、継続的な調査を行い経年変化を把握することで、より実効性のある働き方改革へとつなげていくことを期待する。
- ⑤職務満足度調査において、NO12 職務にたいして、見守った給与をもらっていないと考えている方が多いようですが、同業や他の期間と比べてどの位の水準にあるのでしょうか？ 睡眠時間を削っている(NO11)と答えた方も多いようですが、人員体制は十分なのか検討したい。
- ⑤マイナス評価が多い項目については、具体策が必要であると思う。
- ⑤職務満足度のアンケートにより、全職員の理想をかなえることは厳しいと思いますが、より良い働きやすい職場を実現させる必要があると感じます。福利厚生や職員の支援体制など、各職員が、「必要な時に必要な休みが取れる職場」を構築していただきたいです。
- ⑤幼児教育や園全体としての取り組み、安全管理や組織運営など、教員の方の負担は相当なものだと察します。